



龍ヶ崎市マスコット
キャラクター「まいりゅう」

地域コミュニティ NEWS

第7号 平成27年2月16日発行

【編集・発行】

龍ヶ崎市役所 市民生活部 市民協働課
コミュニティ推進グループ

☎0297-64-1111 内線437・438

回 覧

活動事例研修会で情報交換

他の地区ではどのような取り組みをしているの？



本年度までに8つの地区で組織された中核的な地域コミュニティ。各地区では特色ある活動を展開していますが、役員の方からは「他の地区の活動の様子が知りたい」との声が聞かれていました。

昨年の11月、8地区の地域コミュニティと1地区の設立準備会の役員等の出席による「地域コミュニティ活動事例研修会」を龍ヶ崎コミュニティセンターで開催し、4地区からの活動事例の紹介と情報交換を行いました。出席者からは「話には聞いていたが、具体的な事例紹介があり大変参考になった」等の感想が聞かれました。

紹介のあった活動事例は次の通りです。（紹介順）

協議会名	紹介のあった活動事例（主な内容）
① 龍ヶ崎地域コミュニティ協議会	「皆で支える防犯パトロール」 （小学校区全体での協力により、防犯パトロール活動を実施）
② 馴染まちづくり協議会	「歩いて行ける所で健康づくり」 （近所にある区や自治会の集会施設を活用し、健康づくり活動を実施）
③ 城ノ内コミュニティ協議会	「城ノ内お助け隊」 （日常生活でのちょっとした困り事を解決する有償ボランティア活動を実施）
④ 川原代ふれあい協議会	「これで安心、おらが村」 （「まあ、いっぺよ！」を合言葉に多くの人々が集う各種事業を実施）

「大宮ふるさと協議会」がスタートします。

設立総会は4月に開催



【小学校との合同防災訓練】

地域コミュニティ設立準備会を設置し、昨年度から協議を続けてきた大宮地区では、新たな組織として「大宮ふるさと協議会」を本年4月に立ち上げることになりました。

これまで大宮地区では、小学校と地域が合同で開催する「大宮大運動会」や、小学生の通学班に付き添う形での登下校時の見守りなど、特色ある活動に取り組んできました。

現在、大宮地区には16の住民自治組織（区）がありますが、隣接する区による4つのブロック（東部・西部・南部・北部）が構成され、それぞれに活動を行っています。区域（エリア）の広い大宮地区ならではの特徴的活動と言えるでしょう。

設立準備会での話し合いの中で、「災害時において、避難所の運営をどうしていくのか」「各区には自主防災組織があるが、十分な機能が果たせていないのではないか」など、安全安心な地域づくりに関する意見が多く出されました。

また、高齢化率の高い地区であることもあり、高齢者を狙った悪徳商法（振り込め詐欺など）への対応も課題として挙げられました。

これらの課題解決も含め、大宮ふるさと協議会は、コミュニティセンター講座など既存の活動を継承するとともに、防災訓練や防犯パトロールのさらなる充実にも取り組むことにしています。



【小学校と地域住民の「大宮大運動会」】

防災訓練レポート

各地区で行われた訓練の様子をお伝えします。

いつ起こるか分からない災害に備え、各地区において小学校と合同の防災訓練が実施されました。実施の時期や内容は地区によって異なりますが、概ね次のような訓練が基本メニューとして実施されました。

- (1) 自宅から小学校まで原則徒歩による集団避難
- (2) 模擬訓練（煙体験、消火器訓練、AED訓練など）
- (3) 高度救助隊による救助の様子を見学
- (4) アルファ米を用いた炊き出し など

それぞれの地区によっては独自の訓練も行われました。特徴的なものをいくつか紹介します。

八原地区では、体の不自由な方の避難を想定し、車椅子による避難を体験しました。また、地元消防団や流通経済大学サッカー部の皆さんの協力を得て、各種模擬訓練の体験コーナーを運営しました。若い皆さんが活躍する姿は、八原地区の頼もしい存在として住民の皆さんに強く印象付けられたことでしょう。



【車椅子での避難を体験】 【消防団・流大生と一緒に消火訓練】
(八原地区)

川原代地区では、八原地区同様、体の不自由な方の避難を想定し、リヤカーでの避難を体験したほか、防災士の資格を取得した6人の協議会メンバーと地域の防災士が中心となって避難者の確認を行いました。

また、警察署の協力により、子ども向けのパトカー試乗が行われ、大変好評でした。



【リヤカーで避難】 【避難者を確認する防災士】
(川原代地区)

龍ヶ崎地区では、地震災害を想定し「自ら考えて行動する」を基本として、市や龍ヶ崎小学校、関係各機関との合同訓練を行いました。龍ヶ崎小学校の体育館に避難所を設営し、地域の皆さんが自ら避難所を運営する訓練を行いました。地域の皆さんの協力がなければ避難所運営が成り立たないことを知る機会となりました。



【ダンボールで仕切りを作って体育館が避難所に】
(龍ヶ崎地区)

北文間地区では小貝川の決壊による水害を想定した土のう作りを行いました。（後に北文間コミュニティ協議会防犯防災委員会・武手木委員長の感想を掲載しています。あわせてご覧ください。）



【オイル缶を使った土のう作り】（北文間地区）

このほか、地域の皆さんによる自主的な炊き出し（甘酒や豚汁など）が行われた地区もありました。

防災訓練を振り返って ～龍ヶ崎・竹中会長と北文間・武手木委員長に伺いました～

龍ヶ崎地域コミュニティ協議会
会長（防災部長） 竹中 邦夫



訓練当日は、地域住民、小学生をはじめ関係各機関から約1,200人の参加がありました。

避難所を龍ヶ崎小学校体育館に設営し、プライバシー確保のための簡易な仕切りを、ダンボールで作りました。

避難所では、子どもたちが率先して防災井戸からの水汲み、炊き出しの豚汁配り、避難所設営などを積極的に手伝っていました。

また、当初、訓練参加を躊躇していた、体に障がいをお持ちの方のご家族は、ご近所からのお誘いを受けて訓練に参加し、「いろいろと経験できて自信がついた。次回は私たちと同じ状況のご家族をお誘いします。」との声も聞かれるなど、さまざまな成果を確認することができました。

またまた課題はたくさんありますが、「向こう三軒両隣」のつながり精神を合言葉に、今後とも良き訓練にしていきたいと考えています。

北文間コミュニティ協議会 防犯防災委員会
委員長 武手木 守



毎年9地区全域での防災訓練を行っています。今年度は6月の市内一斉清掃の日に併せて実施しました。

参加者数を確保するため、地区ごとに数を割り当てましたが、防災訓練に参加する意識は思うように浸透していないため人寄せ効果を高めることを目的に、火災警報器の設置義務と効果等が印刷されているトイレトーパーを参加者全員に景品として配布し、さらに火災警報器設置状況についてアンケート調査を行うことで、普及啓発の一助としました。

また、小貝川堤防の決壊を想定し、洪水への備えとして土のう作りを体験しました。オイル缶を加工したものを使うことで、一人でも土のうが作れることに感心しました。

今後の課題は、今回防災訓練に参加できなかった人たちにも参加してもらい、自分の身は自分で守れる体制を作ることです。

各地区の活動より

北文間・龍ヶ崎西・馴柴・八原・長山の様子をご紹介します。

北文間コミュニティ協議会

《ならせ餅づくり》

1月14日（水）に、地域活性化委員会主催による、ならせ餅用の餅つきを開催しました。これは、北文間地区に100年続くとされる「鳥追い」（田畑を鳥の被害から守ることを祈念して木やワラ、前の年に飾っていたしめ縄や、正月に使われた正月飾りなどで小屋をつくり、その小屋を燃やすもの）に合わせて毎年実施しています。



当日は、北文間小学校・なないろ保育園の子どもたちが大きな杵を使って「ヨイショ」の掛け声に合わせて、楽しそうに餅つきをしました。つきあがった紅白の餅を小さな手で一生懸命丸めたり、ケヤキの木に飾り付け、立派なならせ餅ができあがると、大きな歓声が上がりました。

大人から子どもまで一緒に取り組むことで、地域の伝統行事が継承されています。

龍ヶ崎西コミュニティ協議会

《第1回西の風まつりを開催》



10月26日（日）に、龍ヶ崎西小学校体育館において、龍ヶ崎西コミュニティ協議会設立後初めてとなる「第1回西の風まつり」が開催されました。

西の風まつりへは、地区内にお住まいの75歳以上の方を招待したところ、約130人の皆さんが参加されました。お昼には地域福祉委員会から手づくりのお弁当が出され、皆さんは喜んで召し上がっていました。

当日のプログラムは、龍ヶ崎西小学校龍神太鼓クラブの迫力ある演奏を皮切りに、愛宕中学校吹奏楽部による演奏だけにとどまらない素晴らしいパフォーマンスや、観覧席の皆さんも一緒に楽しめる歌やマジック、最後はプロ歌手として活躍されている地元の方の歌謡ショーで楽しい一日が幕を閉じました。

まつりを主催した協議会役員の皆さんは、イベントの企画や出演者の交渉、会場準備などを今まで経験したことが無かったことから戸惑いもありましたが、「何とか無事に成功できて良かった」と喜んでいました。



馴柴まちづくり協議会

《自治会の防犯パトロールを応援しよう！》



馴柴まちづくり協議会では、地区内の自治会に対し、防犯パトロールをしていることを要件として、防犯灯蛍光管の交換費用の一部を支援しています。まち協設立当初は、防犯パトロールをしている自治会は少なかったのですが、今ではほとんど全ての自治会で防犯パトロールが行われるようになりました。

【小通幸谷2区自治会では、パトロール中にごみ拾いも行っています。】

パトロールを始めたものの、「どうやって防犯パトロールを行えばより効果的なのか？」という声も聞かれるようになったため、1月31日（土）、工夫して防犯パトロールをしている自治会を紹介する「事例発表会（防災も同時開催）」を開催しました。時間帯・高齢者の見守り・住民の募集方法などについてアイデアを出し合い、今後の自治会活動の参考にしました。



【防犯・防災活動の事例発表会】

八原まちづくり協議会

《笑顔の花を植えましょう!》

11月15日(土)、「花いっぱい運動」として、城ノ内中学校の生徒50人、市役所職員のボランティア15人を含む総勢80人で、さんさん館脇の桜並木にパンジーの苗を600株植えました。

協力してくれた中学生の皆さんも、苗植えから水やりまで、朝早くから一生懸命に作業してくれました。春にはピンク色の桜と黄色のパンジーが道行く人々の目を楽しませてくれることでしょう。



長山地域コミュニティ協議会

《「長山ゆるカフェ」お気軽にお立ち寄りください!》



『高齢者いきがいプロジェクト』

有志により、ほんの少しでも地域の皆さんの交流の場になればと、月に1度「長山ゆるカフェ」を長山コミュニティセンター1階ロビー【写真右】でオープンしています。

(次回開催日などは長山コミュニティセンターにお問い合わせください。)

11月と12月に開催した内容は次の通りです。

【ゆるカフェのお手製看板です! (写真左)】

【11月】パッチワークカフェ

(クリスマスの小物づくりに挑戦)

【12月】ニットカフェ

(皆さん久しぶりに編み針を握りました)



地域コミュニティに関する意見交換

長戸・久保台で開催

長戸地区では区長を中心とした意見交換会を2回、久保台地区では自治会長や団体の代表者などによる懇談会を6回行いました。平成27年度から地域コミュニティ設立の準備を始めることを視野に入れた話し合いが進んでいます。

2市から視察に来ていただきました。島根県雲南市・埼玉県久喜市より

1月7日(水)に島根県雲南市の職員の方、また、1月28日(水)には埼玉県久喜市・久喜コミュニティ推進協議会の皆さんが当市の地域コミュニティの視察に訪れました。

久喜市からは32人の皆さんが視察に来ていただき、馴染まちづくり協議会・城ノ内コミュニティ協議会のご協力により、当市と久喜市の住民どうしで、地域コミュニティに関する経験談や課題などを話し合いました。

馴染まちづくり協議会からは「まち協体操」、城ノ内コミュニティ協議会からは「城ノ内お助け隊」の活動事例を発表しました。

また、市商工観光課から、龍ヶ崎コロッケがYahoo! JAPAN主催「第2回ご当地メシ決定戦2014」で日本一となったことの紹介があり、「米粉クリームコロッケ」を久喜市の皆さんに味わっていただきました。

龍ヶ崎市の地域コミュニティの活動は、県外の地域のつながりを深めるためのお手伝いもしています。



【城ノ内お助け隊の活動事例】



【龍ヶ崎コロッケを「味わあれ」】

【平成27年度

龍ヶ崎市住民自治組織連絡協議会総会・行政事務説明会のお知らせ】

日時：5月9日(土) 午後1時開会(時刻は予定) 会場：龍ヶ崎市文化会館小ホール